



<https://j-akademeia.jp/>

日本アカデミア事務局（公益財団法人日本生産性本部内）
〒100-6105 千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー5階
E-mail:j-akademeia@jpc-net.jp

以下の二次元コードからHPをご覧ください



この印刷には、環境に配慮した「水なし印刷」と「NonVOCインキ」を採用しています。印刷工場の消費電力量の一部（年間30,000kWh）はCO₂を排出しないグリーン電力を使用しています。

2025年10月

日本アカデミア ご案内

JAPAN AKADEMEIA
PROFILE



日本アカデミア
JAPAN AKADEMEIA

日本アカデミアは、日本の政策を考える官民共通の基盤を再構築し、日本の公共を立て直すことを目的に、経済界、労働界、教育研究機関、学識者らにより2012年4月に設立されました。

日本アカデミアの目的

- 1.日本アカデミアは、日本の将来を担わねばならない公共人材を各界が支え、リーダーシップを涵養するための取り組みを行います。
- 2.日本アカデミアは、政治家、官僚と国民各界をつなぎ直し、日本社会の各分野の知恵や経験を引き出し、人材を結集する「ハブ」として活動します。
- 3.日本アカデミアは、日本の政府や政治の人的、知的、組織・制度的基盤を根本から考え直し、インフラの再整備にむけて発言します。
- 4.日本アカデミアは、グローバル時代における日本の政府や政治の対外的な発信力を高めるために活動します。

共同塾頭・会員委員長・運営幹事

常任塾頭 茂木 友三郎 キッコーマン取締役名誉会長 取締役会議長

常任塾頭 佐々木 毅 元東京大学総長

常任塾頭 小林 喜光 東京電力ホールディングス取締役会長

共同塾頭 伊藤 公平 慶應義塾長

共同塾頭 田中 愛治 早稲田大学総長

共同塾頭 藤井 輝夫 東京大学総長

共同塾頭 芳野 友子 連合会長

会員委員長 福川 伸次 地球産業文化研究所顧問

運営幹事 曾根 泰教 慶應義塾大学名誉教授

運営幹事 増田 寛也 野村総合研究所顧問

運営幹事 前田 和敬 日本生産性本部理事

および経済界、労働界、学識者等により構成

事務局



公益財団法人 日本生産性本部

発足宣言文（設立趣意書）

いま、世界は大きく動揺し、わが国はこの数年の間に多くの重要な選択を行わねばならない歴史的な節目を迎えています。そして、わが国が今日の国内外の危機を乗り越えていくためには、何よりも先ず、私たちの政府や政治の人的・知的基盤、組織・制度的基盤を根本から考え直さざるを得ない事態に立ち至っていることは、すでに多くの国民の合意するところであろうと思います。

とりわけ、困難な時代に立ち向かう日本社会の精神的エネルギーと人材をいかにして活用・涵養するかは、いまや喫緊の課題であると言わざるを得ません。私たちはこのような認識のもと、①日本に眠っている国民の知恵と経験、人材を結集しうる環境を整えるとともに、②日本の将来を担わねばならない公共人材を各界が短期的な利害得失を超え、長期的な視野に立って支えていくための取り組みを開始しなければならないとの結論に至り、ここに、「日本アカデミア」を立ち上げることを決意いたしました。

「日本アカデミア」は、日本の公共を立て直すための各界をつなぐハブ組織であり、人材と知と経験の交流の場であることをめざします。私たちはこの営みを、日本を担うことが求められている政治リーダーや官僚と国民各界が交流し、ともに学びながら、日本の直面する課題や時代認識、経験を共有し合うところから始めたいと思います。

いま、私たちは、過去の手法を漫然と踏襲し、状況に逐次対応することでは到底対処できない時代の只中に生きています。「安住の精神」で物事を処理しようとするリアリズムの深刻な欠陥が、日本社会の危機をさらに増幅させています。

こうした時代にあっては、私たちは、「基本に帰る」必要があります。「基本に帰る」とは、物事の本質を見極める精神的な意味でのタフさと実力を身につけることに他なりません。原理的な問いを出し合うことによって共感力と想像力を鍛え直し、知の体系化をうながし、リーダーのなすべきことを自己確認し、再定義する各人の真摯な取り組みが必要です。そして、そのための環境を整備することが、いま各界に求められています。

私たちが、新たに発足させるこの組織を「日本アカデミア」と名付けたのも、そうした根源的な問いかけを始めることこそが、日本の急務であると考えからです。私たちは、こうした思いを胸に、経済界、労働界、教育研究機関、学識者など問題意識を共有する国民各界の心ある方々に呼びかけ、ここに、「日本アカデミア」を立ち上げます。

2012年2月19日
「日本アカデミア」発足懇親会



2025年8月 第4期アカデミア研究会 「両グループ合同幹事集中討論会」

1. 政治リーダーとの対話と合意形成

政治リーダーの活動を支える環境を各界で整備するため、日本の長期ビジョンについて総理大臣や閣僚等との継続的な対話を行い、日本の改革に向けた合意形成を目指しています。



2013年5月17日
ゲスト：故・安倍晋三 内閣総理大臣



2020年12月19日
ゲスト：菅義偉 内閣総理大臣



2016年11月25日
ゲスト：野田佳彦 衆議院議員



2019年11月1日
ゲスト：岸田文雄 自由民主党政務調査会長



2016年4月6日
ゲスト：高市早苗 総務大臣



2020年10月1日
ゲスト：石破茂 衆議院議員



2024年12月23日
ゲスト：林芳正 内閣官房長官



2025年1月17日
ゲスト：加藤勝信 財務大臣

政治リーダーとの交流会

これまで日本では設けられる機会が少なかった、次世代を担う与野党政治リーダーの話をじっくりと聞き、継続的に対話を重ね、本音の意見交換を行える場づくりにつとめています。2012年3月以降、現在（2025年10月）までに現職の総理大臣3名、現役閣僚25名以上をはじめ、衆参両院の国会議員を中心に計100回以上に渡り、日本アカデメイアメンバーとの活発な意見交換を行っています。

※役職は会合開催当時のもの

2. 産官学による日本と世界の長期ビジョンの検討と ネットワークの立て直し

産業界（経済界、労働界）、官界、学界の人的・知的ネットワークを 立て直します。

日本と世界の直面する基本的かつ重要な問題を取り上げ、垣根を 超えた認識の共有化と問題解決に向けた検討を進めています。

アカデミア研究会

第1グループ「技術革新と産業社会の将来～DX、生成AIの影響など～」

デジタルトランスフォーメーション（DX）や生成AIなどの進展が現下の社会構造や経済システムに革新的な変化をもたらしている中、技術革新の動向や産業社会への影響、今後のイノベーションのあり方などについて検討します。



茂木 友三郎

第1グループ共同座長
日本アカデミア常任塾頭・
キッコーマン取締役名誉会長
取締役会議長



増田 寛也

第1グループ共同座長
日本アカデミア運営幹事・
野村総合研究所顧問



福川伸次

第1グループ顧問
日本アカデミア会員委員
長・地球産業文化研究
所顧問

第2グループ「グローバルな政治・経済と新しい国際秩序」

トランプ政権の再来や新しい局面を迎えたウクライナ問題、中国の挑戦など、戦後80年続いた国際秩序が揺らいでおり、急速なテクノロジーの進化が人々の行動変容にも変化をもたらしている中、今後の国際秩序と日本のあり方について検討します。



小林 喜光

第2グループ共同座長
日本アカデミア常任塾頭・
東京電力ホールディングス
取締役会長



田中 明彦

第2グループ共同座長
日本アカデミア幹事・
国際協力機構理事長



佐々木 毅

第2グループ 顧問
日本アカデミア常任塾頭・
元東京大学総長



2019年5月24日～25日 第3回 日本アカデミア幹事合宿(万平ホテル)

日本アカデミア幹事合宿

日本の諸課題についての熟議と政策発信、メンバー同士の交流の深化を目的として、合宿形式による集中討論を開催しています。

過去の討論テーマの一例

2019年：「ポスト平成時代の改革アジェンダ～政策と実行体制～」



2024年12月6日

ゲスト：ペトラ・ジグムント

駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使

駐日大使との交流 活動

日本アカデミアのネット ワークをグローバルに展開するため、駐日 大使との交流会を開催しています。

「両国間の現状と課題」を共通テーマとして、両国間の友好関係・経済関係の発展に向けて、活発な意見交流 を行っています。

【過去の開催実績の一例】

オーストラリア、ブラジル、カナ ダ、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イスラ エル、イタリア、韓国、ロシア連邦、英国、米国、欧州 連合



2022年7月11日

ゲスト：ラーム・エマニュエル

駐日米国特命全権大使

※役職は会合開催当時のもの

3.次世代の人材育成

次の時代の日本を担う政治家、官僚、産業人の育成を目指します。
日本が抱える諸課題をとともに議論し、知恵を出し合う場づくりを目指します。

リーダーシップ交流会

企業：次代を担う経営リーダー
官僚：審議官・局長クラス

官民交流・政策研究会

企業：政策・企画・調査分野の幹部・専門人材
労働組合：委員長、事務局長クラス
官僚：各省課長クラス

次世代に投資をするための官民交流促進の一環として、日本や産業界の抱える諸課題に対し、各界や各省の垣根を超えて交流し、知恵を出し合う場づくりを目指しています。



リーダーシップ交流会
第4期顧問
官民交流・政策研究会 顧問
福川 伸次
日本アカデミア会員委員長・
地球産業文化研究所顧問



リーダーシップ交流会
第4期第1グループ座長
遠藤 信博
日本電気特別顧問



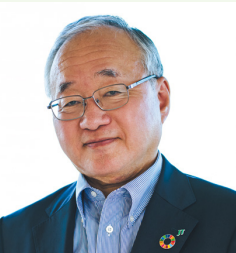
リーダーシップ交流会
第4期第1グループ座長
官民交流・政策研究会 世話人
安藤 久佳
東京中小企業投資育成
代表取締役社長

ジュニア・アカデミア

志ある大学生・大学院生を対象に、自分の未来を自分の責任で選び取る、本当の意味での「主権者」を育成することを目的に2015年10月に開校しました。次の時代を担う学生が主体となって、日本が直面する解決困難な課題について識者との対話を通じて、学び、考えることを主眼に運営しています。



リーダーシップ交流会
第4期第2グループ座長
北沢 利文
東京海上日動火災保険
相談役



リーダーシップ交流会
第4期第2グループ座長
官民交流・政策研究会 世話人
岡本 薫明
日本たばこ産業
取締役副会長



曽根 泰教
ジュニア・アカデミア校長
日本アカデミア運営幹事
慶應義塾大学名誉教授

2025年8月25日～27日
第10期キックオフ合宿

2025年3月14日
第9期「大学生とのオンライン交流会2025」
参加者：日本アカデミアおよび令和臨調
関係者70名程度

2025年2月7日
第9期 経営者との対話
鈴木 純
日本アカデミア幹事・帝人シニア・アドバイザー

第1回「東京会議」（2019年12月）

「世界のパワー構造の変容とグローバルガバナンスの将来」-冷戦終結30年にあたってこれからの世界と日本を考える-



〈海外招聘討論者〉
ジャック・アタリ氏
(経済学者・思想家)



小林喜光
日本アカデミア常任塾頭



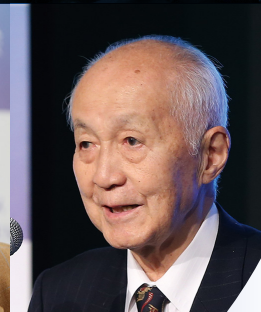
佐々木毅
日本アカデミア常任塾頭



茂木友三郎
日本アカデミア常任塾頭



〈海外招聘討論者〉
グレーム・アリソン氏
(政治学者・ハーバード大学教授)



福川伸次
日本アカデミア会員委員長

未来への責任～先ず、日本を変えよう、そして日本から世界を変えよう～

昨今の先進民主主義に見られる変調は山積する課題の政治的な現れである。

日本アカデミアはその主要なテーマとして「グローバリズムとデモクラシー」を取り上げたが、冷戦終結を挟んで世界の基軸とされた経済のグローバリズムと民主主義とは調和的な関係にあるどころか、今や摩擦と緊張の関係の様相を呈しつつあることが目の前で実証された。その上、迫りくる第四次産業革命が更にこの摩擦と緊張を加速するとの声にも事欠かない。

かくして民主主義は難題を解決するどころか、山積する難題に圧倒され、不満や怒りの表出の場に転じつつある。

多くの難題はグローバルな協力を必要とするが、右派のポピュリズムはこうした協力には敵対的で、とかくそれからの「退出 (exit)」に傾斜し、結果として問題状況はさらに悪化する可能性が高い。そうなればさらに不満と怒りはますます強まり、世界は完全な悪循環にはまらないとも限らない。その意味では、この変調は重大な危機の兆候と考えるべきである。

民主主義の「統治能力の危機」は、かつてのように権威主義的独裁体制の魅力を高めることにつながるかも知れないし、ソフトパワーの衰退と軍事力の跳梁跋扈につながるかも知れない。山積する諸課題が連鎖反応を起こし、世界が大惨事に見舞われると予想する声もある。

未来を占うことには限界があるが、確かなことは、われわれが大きな転換期にあること、自己改革と新しいグローバルな取り組みの必要性を示すサインが随所で鳴り響いているということである。

日本社会は一見こうした世界の変調とはまったく無縁で、まるで小春日和を楽しむかのように余剰幻想に頼り、「この今」の満足感に浸っているように見える。

しかしこれは、「未来への責任」を果たすこととは大きくかけ離れている。今こそ必要なのは、これまで幾多の危機を切り抜けてきた基盤であるわれわれの精神的エネルギーを「未来への責任」の実現に向け、全面的に解き放つことである。

それは二十世紀から自由に、二十一世紀型の新しい社会契約の形成に向けて大胆に取り組むことである。このようにわれわれの意図するところは、「先ず、日本を変えよう、そして日本から世界を変えよう」という言葉に要約される。

日本アカデミアはこうした「未来への責任」の理念に基づき、二十一世紀の日本の実現に向けて次のような活動を推進する。

- 一 世界に向けて発信する組織として具体的な交流を開始する
- 二 各界を横につなぎ、相互啓発と知恵の結集を図る
- 三 次世代の人材育成に努める
- 四 次なるデモクラシーのあり方を模索する